

第 63 回国連総会における麻生総理大臣一般討論演説

https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11778108/www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/20/easo_0925.html

2008 年 9 月 25 日、ニューヨーク

議長、御列席の皆様、

It is my greatest honour to stand here as the new Japanese prime minister---

brand new, really, having been designated by the Diet just slightly more than 24 hours ago.

（私は 24 時間余り前、我が国会から日本国の総理大臣として指名を受けました。受けたばかりの者、でありまして、そのような者として本日この場に立つ機会を得ましたことは、まことに光栄の至りであります。）

初めに、ミゲル・デスコト・ブロックマン総会議長の就任をお祝い申し上げ、スルジャン・ケリム前総会議長の御尽力に、心より感謝します。潘基文事務総長は、国連諸活動の運営に、変わらぬ指導力を発揮しておいでです。深甚なる、敬意を表すものであります。

議長、

この度ニューヨークを訪れて、私はバンカー（銀行家）について昔聞いた話を思い出しました。バンカーには、いつも 2 種類しかないそうです。少ししか記憶できないバンカーと、まったく何も記憶できないバンカーと――。

金融に、マニアとパニックが相伴うこと、形あるものに、影の従う如くであります。一定の間隔を置いて、マニアは必ず胚胎し、パニックを招来します。

今から 10 年前のちょうど 9 月、世界は一度、流動性を突如失う悪夢を見たはずでした。この四半世紀余り、東京はもとより多くの国、市場を舞台としながら、マニアとパニックは数年おきに、あたかも終わりのないロンドを奏でてきたかに見えます。

この度の熱狂において、東京は比較的素面（しらふ）でありました。が、これとても、1980 年代から 90 年代にかけたたかあおった酒の宿酔（ふつかよい・ahangover）が過剰債務

（adebtoverhang）となり、これに苦しむこと、あまりの長きにわたったゆえだったに過ぎぬと言っていいてまいしょう。

まこと、ロンドに終わりはなく、人類は、遠からず同じ旋律を聞くに違いあるまいと思います。そのたび 1 インチであれ前進し、賢明になろうとするほか、対処の方法はありません。

国際金融の仕組み（アーキテクチャー）を巡る侃々諤々（かんかんがくがく）が、いま一度始まるものと思います。日本として、持てる経験と、知識の貢献に心がけたいものであります。

議長、

5 月の日本は、新緑を愛でる季節です。7 月 7 日とは、軒先に飾った竹の枝に、願い事を書いた紙片をくくりつけ、子供と大人が夜空に夢を見る日であります。

今年の 5 月、日本は港町横浜に総勢 3000 人を集め、TICADIV と我々の呼ぶ、アフリカ開発に関する会議を開きました。

アフリカからは、41 人の国家元首・首脳級を含む、51 カ国の代表が集まりました。「元気なアフリカ」を高らかに謳いあげ、経済成長を加速するための支援を呼びかけました。ミレニアム開発目標を、持続可能な形で追い求める――。人間の安全保障という、日本が大切に育くんだ理念にもとづいて、アフリカに保健を、水と衛生を、そして教育をもたらししていく――。3000 人は、決意を新たにしました。みずみずしい若葉の緑は、一人ひとりの胸を染めたであります。

そして 7 月 7 日、未来に夢を託す日を選び、我が政府は北の島、北海道の洞爺湖に舞台を移して、G8 サミットと、一連のアウトリーチ会合を開いたのであります。

主なテーマのひとつを再び開発をめぐる問題とし、アフリカから多くの参加者を呼んだのは、取りも直さず TICADIV がもたらした勢いを、確かならしめるためでした。

いまひとつを気候変動への対応とした結果、世界全体の長期目標採択を目指し、すべての主要経済国が責任をもって加わる、実効的な枠組みを国連の下でつくることになりました。このことを私は洞爺

湖の小さくない成果として、指を屈すべきものと考えます。2009 年末までに、実現を目指したいと思います。

気候変動との取り組みを、議長始め皆様は、我が国千年の古都、京都の名と結びつけてご記憶でありましょう。もとより日本は、本問題につき、いささかの自負なしとしません。GDP1 単位を生み出すのに必要なエネルギーの少なさにかけて、世界のトップを行くのは日本であります。背後には、それを可能にした技術の独創がある。大いに、世界に使ってほしいものです。セクター別アプローチという発想も、これをもって日本が諸国への貢献を目指すものであります。

議長、

これが、つい 2 カ月と少し前、我が国主催のもと、G8 が到達した地点であったのです。

今や、世界経済は変調にあります。私は、5 月の誓いと、7 月の夢が、疾風下、いささかも動じないことを願い、かつ信じます。元気なアフリカを、一層元気にすること。地球環境の悪化を、すべての国の努力によってくい止めること。いずれとも、世界経済の安定を大切な前提とするものです。

であるならば、私の見るところ、日本自身の課題はもはや明白であります。すなわち日本は、自らの経済を伸ばしていくことに、その一義的な責務をもつのです。世界第 2 位という日本の経済規模に照らすなら、これこそは、日本がなし得る即効力のある貢献だと言わねばなりません。わたくしは、これに断固として取り組んでまいります。議長始め皆様に申し上げ、約束するものです。

議長、

話題を転じ、夏の終わりの、ある出来事をご紹介しますと存じます。

ところは、東京郊外の小さな街。去る 8 月末、ここに海外から 9 人の高校生がやって来ました。日本に来るのは初めてです。慣れない料理に顔をしかめるなどは、どこにでもいそうな高校生のビジターと、変わるところがありません。

1 つだけ、ありふれた招聘プログラムの参加者に比べ、彼ら、彼女らを際立たせていた特徴がありました。4 人がパレスチナ、5 人がイスラエルの高校生で、全員、テロリズムを始めとする過酷な中東の現実によって、親族を亡くした遺児であったという点です。

議長、

日本の市民社会が地道に続けてくれている、和解促進の努力をご紹介します。高校生たちは、母国に在る限り、互いに交わることがないかもしれません。しかし遠い日本へやってきて、緑したたる美しい国土のあちこちを、イスラエル、パレスチナそれぞれの参加者がペアをなして旅する数日間、彼らの内において、何かが変わるのです。親を亡くした悲しみに、宗教や、民族の差がないことを悟り、恐らくは涙を流す。その涙が、彼らの未来をつなぐよすがとなります。

包括的な中東和平には、それをつくりだす、心の素地がなくてはならぬでしょう。日本の市民社会は、高校生の若い心に投資することで、それを育てようとしているのであります。

議長、

この例が示唆する如く、日本ならばこそできる外交というものがあることを、私は疑ったことがありません。

ヨルダン川西岸地区に、もしイスラエルの点滴灌漑技術を導入できたなら、パレスチナの青年は野菜づくりにいそしむことができます。しかし双方を隔てる不信の壁は、それを直ちには許しません。日本はそこに、触媒として入り込み、両者を仲介します。その際に、点滴灌漑の力を最大限発揮せしめる日本独自の技術を持ち込みます。

やがて西岸地区が灌漑によって緑の大地となること。そこで採れた農産物がパレスチナ人の加工を経、ヨルダンを経て湾岸の消費地へ行き、新鮮なまま店頭に並ぶこと。これを目指すのが、我が政府の進める「平和と繁栄の回廊」構想にほかなりません。

日本はここで、自らの持つ技術や資金を提供するのはもとよりのこと、何よりも、信頼の仲介者となるのです。そして信頼こそが、中東にあっては最も希少な資源であること、言をまちません。

我が政府は今、核兵器の全面的廃絶に向けた決議案を提出しようとしています。日本がこれに込める思いの丈を、疑う人としていないでしょう。同じ意味において、IAEA の活動に日本が重きを置くことに、多くの説明は無用であろうと存じます。かつて同機関理事会議長を務めたことのある天野之弥

（あまの・ゆきや）ウィーン代表部大使を、わたくしは、IAEA 次期事務局長候補として立たせるものです。皆様の、ご支持を願ってやみません。

議長、

先にわたくしは、日本における 7 月 7 日の意味について触れました。G8 のため洞爺湖に集まった、首脳と配偶者たちは、笹の葉に、こもごも願いを書き付けたのであります。言葉こそ様々であれ、平和を願わなかった人はおりません。

けれども以来わずかの月日を経るうちに、各所で平和の乱れる事態が相次ぎました。私はまずグルジア情勢に関し、ロシアを含む当事者の責任ある対応によって、領土保全の原則にもとづきながら、問題が、平和的な解決を見ることを強く期待するものであります。

7 月 7 日――。英国で、これは忌まわしい記憶を呼び覚ます日付でありましょう。ここに集う我々にしても、イスラマバードを 5 日前に襲ったテロリズムの非道に対し、憤怒を新たにしたはずであります。アフガニスタンの情勢にも、改善の道筋はなかなか見えようとしません。テロリズムが世界の平和と繁栄に対する最大の脅威であることに、いささかの変わりもないのであります。

国際社会はテロリズムに対する粘り強い取り組みを、なお続けねばならぬと信じます。我が国は、アフガニスタンの復興支援に当初から力を注ぎ、インド洋では補給活動が続けてまいりました。私はここに、日本が今後とも国際社会と一体となり、テロとの闘いに積極参画してまいることを申し上げるものです。

日本の近隣に残る問題として最たるものは、言うまでもありますまい、北朝鮮であります。

いとけない少女、「めぐみ」を含む我が国国民を拉致した北朝鮮は、被害者の調査に乗り出すことを約束しながら、未だに着手しておりません。核を放棄する誓約にも、昨今停滞が目立つこと、周知の如くです。私には北朝鮮の行動に応じ、両国間に残る懸案を解決、不幸なる過去の清算にも取り組みながら、日朝関係を前進させる用意があります。待っているのは、北朝鮮の行動です。私は同時に六者会合の枠組みを通じ、北朝鮮に核開発能力と、核兵器の廃棄を迫ってやまぬつもりです。

この際、中国と韓国はそれぞれ日本にとって重要なパートナーであり、互恵と共益を一層増進していくべき国々であります。我が国はこの両国や ASEAN と重層的な協力を進め、東アジア地域と、ひいては世界の平和と繁栄のため、共に働かねばならないと考えます。

議長、

わたくしは冒頭申し上げましたとおり、日本国総理大臣に就任したばかりの者です。国会の指名と、天皇陛下の任命をいただいたのが、ものの 24 時間余り前のことであります。最初の仕事として、本議場に駆けつけたかった訳を、もはやご理解いただけたことでしょうか。私には、申し上げたい事柄が多々あったのであります。

顧みるに我が国は、日米同盟を不変の基軸としながら、近隣アジア諸国との関係強化に努めて今日に至りました。国連を重んじ、国際協調の路線を一度として踏み外そうとしなかったことは、議長をはじめ、本会議場にご参集の皆様が一樣にお認めいただけたところでありましょう。いくたびか挫折を経ながらも、経済の建設に邁進してきた我が国民を今日まで導いた一本の線とは、経済的繁栄と民主主義を希求する先に、平和と、人々の幸福が、必ずや勝ち取れるという信念にほかならなかったのです。

私は、基本的価値を同じうする諸国と連帯し、かかる日本の経験を、強い求めのある国々に伝えてまいりたい。日本には、その責務があると信じてやみません。

議長、

それゆえにこそ、私が日本国民を代表し、再言、三言せねばならないのは、国連安全保障理事会を改革する要についてであります。常任・非常任双方の議席拡大を通じた改革を、早期に実現せねばなりません。来月、安保理は非常任理事国を改選します。日本は、これに立ちます。議長、ならびにご列席の諸国の皆様に、日本への支持を強くお願いし、私の議論を終えようと思います。

有難うございました。